

News Letter

下津井の干しダコ（倉敷市）

2009年

12月

岡山県版

中国四国農政局

高校生が取り組む「園芸福祉」

農業は自然や生き物と関わることから、古くから「癒しの力」を持つことが認められています。実際、多くの福祉施設などで園芸活動が取り入れられています。農業分野での障害者雇用促進は、貴重な労働力の確保となり、障害者にとっては、地域で就労の場を得ることで自立へのステップとなるなど、大きな可能性を秘めています。

今回は、「目指せ!!園芸と福祉のコラボレーション」をコンセプトにした岡山県立高松農業高等学校の取組を紹介します。

～農の福祉力～

県立高松農業高等学校

目指せ!!園芸と福祉のコラボレーション

同校には、全国でも珍しい対人サービス分野の「園芸福祉」の専攻があります。園芸福祉の取組は、現園芸科学科長の三宅先生が、園芸科学科の学科改編や、近くの高齢者福祉施設との相談をきっかけに、生徒とお年寄りによる「コケ玉づくり交流」から平成14年にスタートしました。

現在では、お年寄りや自閉症の子どもとの園芸交流、また、地域における園芸福祉の拠点として「初級園芸福祉士養成講座」や「園芸福祉セミナー」を開講するなどの様々な活動を展開しています。



高校生が先生となって楽しく丁寧に作り方を指導しています。



▲生徒達は、作業しやすいように十分な事前準備をしています。



▲かわいくできた芝人形のサンタさん。しばらくすると、頭に播いた芝が伸びてきます。

岡山市立京山中学校特別支援学級と、野菜の植付作業や収穫体験など年5回の園芸交流を平成18年から実施しています。クリスマスも近づいてきた11月26日には、サンタクロースの芝人形作りを一緒に行いました。引率の先生によると、「園芸交流には、いつも参加者全員がとても楽しそうに参加しています。」とのこと。

作業は高校生が先生となって指導を行い、笑顔と楽しい会話が続きました。

三宅先生は、「生徒は、園芸福祉の実習をとおして地域・社会貢献するなかで人の役に立っていることを実感し、生徒の自信にもつながっています。」と話してくれました。



▲初級園芸福祉士養成講座で受講生が作ったモデルガーデンのひとつ。高齢者になじみのある植物で構成されています。

★ 中国四国農政局は、「岡山地域農業の障害者雇用促進ネットワーク」事務局として、農業分野での障害者の雇用促進に取り組んでいます。★